



『MATTERHORN』 Landeskarte der Schweiz 1 : 25000

名作の中の法律家

奥野善彦

10年前、日本弁護士連合会の主催によるヨーロッパ各国の司法制度の視察旅行中、ブタ・ペストの弁護士会で以下のような挨拶が取り交わされた。

訪問団の団長山本忠義氏が日弁連の活動状況を紹介するため、日本の弁護士の制度は、100周年を迎え、最近では再審で死刑囚が無罪となる画期的な業績をあげることが出来た旨の挨拶を終えた。すると、地元の会長がやおら立ち上がって、「それは大変結構なこと」と、遠来の客をたたえてくれてから「この地ブタ・ペストでは弁護士は1000年の歴史があります」と答えた。当時、ハンガリーはまだ西ヨーロッパの自由主義国とは鉄のカーテンにより仕切られた東側の赤い国、共産主義国家体制の中で弁護士が1000年の歴史を持ち、しかも自由業である弁護士が今も盛んに活躍していることを聴いて、一同驚かされたものであった。

ヨーロッパの国々の弁護士の歴史は古い。

人間が集団で生活するところ、必ず紛争がつきものであるから、その紛争を解決する裁判の歴史は古く、人間の社会的生活に深くかわりを持ってきた。

そのため裁判に関する事柄、あるいは裁判にたずさわる法律家が小説のジャンルにも古くから登場してきた。

私が愛読した本の中で、法律家はその作中で重要な役割を担って登場してくるものとしては、チャールズ・ディケンズ (Charles Dickens 1812-70) の『ディヴィッド・コパーフィールド』と、トルストイ (Lev Nikolaevich Tolstoi 1828-1910) の『アンナ・カレーニナ』と『復活』をあげることが出来る。

ところで、これらの作品に出てくる法律家

が、いずれも芳しからざる人物として登場してくるのは、同業の法律家の私には、慨嘆にたえないところである。昔から「よい法律家は悪しき隣人」「八百の嘘でごまかす三百屋」とか「馬鹿者と頑固者が弁護士を富裕にする」などと、洋の東西を問わず法律家は言われてきた。このことは、いつの世にも腐敗した法律家が多く存在したことによるものであるが、その外に、このような名作の中で法律家（とりわけ弁護士）がとりわけ悪者として扱われていることも一因しているのではないかと思われる。最近日本で行われたアンケート調査によると、弁護士、裁判官、検察官の法曹三者について国民から「かなり頭が良く、鋭く、信頼出来、清潔であり、正義の味方である」と高い評価を受けて、いささか気持ちを良くしているときだけに、今改めてディケンズやトルストイの作品を読み返してみると、何んともやりきれない思いがする。現代の法律家であれば、『アラバマ物語』(Harper Leeの小説。昭和40年代この美しい作品は、小説ばかりでなく名優グレゴリー・ペック主演の映画を通じて、全世界の人々に深い感動と興奮を与えた。)の主人公アティカス弁護士程度にはせめて描いてもらいたいと考えるのは、日本の弁護士のごく一般的な自負心ではないだろうか。

ディケンズは少年の頃、父ジョン・ディケンズが借金が払えなくて刑務所に入獄させられたようなこともあって、ひどく貧乏していた。15才のとき法律事務所の事務員として働くようになり、2年後には裁判所の速記官となって法律実務の世界を垣間見た。その間の経験から、彼は法律家にある種のイメージを抱いたものと推認出来る。それは決して法律

家に好意を持つものではなかったのであろう。サマーセット・モーム (William Somerset Maugham 1874-1965)によれば、このディケンズの『ディヴィッド・コパーフィールド』は、世界最高の傑作と評価されている。この涙と笑いが巧みに溶け合い、峻厳で冷酷な現実を甘い夢のようなロマンスですっかり全体を包み込んだ美しい珠玉のような名篇の中で、宝玉のような主人公のディヴィッドの好漢ぶりとは対照的に、その敵役となって出てくるのが法律家のユライア・ヒープである。彼は一見謙譲そのもののような態度で自分を卑下し、他人に接するが、実に、常に腹に一物ある男で、ひそかに何事かをたくらんでいる好ましからぬ陰気な人物となっていて、しかも彼のその性格に恰もピッタリ一致するかのように彼の職業である法律家像が描かれているのは、法律家の読者にはなんとやりきれない。

この小説が発表されると、世界から大喝采を受けたのであるから、法律家を見る世間の目というのは当時はこのようなものであったのだろう。

ディケンズのこの傑作から少々時代が遅れて発表されたトルストイの作品では、法律家に対する厳しい見方がもっと徹底してくる。

トルストイの名作『アンナ・カレーニナ』の中で、ウロンスキーとの激しい愛のため夫を捨てた女主人公アンナとの離婚を決意した高級官僚で著名な、しかし世俗的な名聞にのみこだわる俗物の夫アレクセイ・アレクサンドロビッチ・カレーニンを通して、ペテルブルグの著名な弁護士の感想が綴られている。「彼はネクタイや時計の二十鎖からエナメルの半長靴に至るまで、まるで花婿のようなめかし方をしていた。顔は小利口らしい百姓面であったが、服装はいやににやけた低級な趣味であった。」(中村白葉訳・岩波文庫)と語らせ、且つ、アレクセイから事件の依頼を

受けた後、この冬までには弁護士は自宅の家具をすっかりビロード張りにしてしまうとの決意(アレクセイから高い報酬がとれることを目論んでのこと)を語らせることにより、この弁護士の醜い商魂、ベニスの商人気質を敢えて語り綴ってこの章をしめくくっている。

『アンナ・カレーニナ』は、芸術の薫り高い作品である。そこに出てくる主要な人物の中で最も低俗な人間として描かれているアレクセイ・アレクサンドロビッチよりもさらに低級な趣味の悪い人間として法律家が書かれているのは、当時の法律家が概してそのようなものであったにしても、この名作が今後も永久に残るものであるだけに、後世の法律家にとっては有難くない。法律家を蔑視するような見方は、トルストイの晩年の名作『復活』においては、さらに徹底したものとなった。彼はそこで仮借ない峻厳な批判精神のもとに法律家に憤怒の声をあげさせている。

『復活』の主人公ネフリュドフの永遠の恋人カチューシャの冤罪事件にあたって、カチューシャの依頼した弁護人は、マースロウ(カチューシャの本名、カチューシャは愛称)が窃盗に加わったこと(そのような事実は全くないにもかかわらず)を少しも否定せず、事件の本質に無関係な弁論を長々としかもおどおどしながら、つかえつかえ弁護するのみであったと、その無能ぶりが徹底して描写されている。反面、カチューシャに罪をなすりつけて共犯者の無罪を主張する弁護士は、多額の報酬をもらう約束で嘘をデッチあげる所謂事件屋、三百代言の悪徳弁護士として書かれている。

『復活』は、トルストイが友人の法律家から聴いたフィンランドのある別荘番の娘でロザリヤという16才の美しい少女が、大学を卒業したばかりの一青年のために誘惑された結果、主人の家を追われて売春婦に墮落し、ついに窃盗の

罪に擬せられ入獄したという話を素材にしている。そのロザリヤをモデルにして『復活』の物語を創作し、さらに当時の裁判所及びそこで働く法律家と監獄制度を徹頭徹尾弾劾する告発書として世に発表されたものであった。

文豪トルストイは、はじめ、カザン大学東洋語学科に入学したが、その後志を変え、ペテルブルグ大学の法科に転入して法学を専攻した。彼の最も多感で春秋に富む時期に法学を学んだことが、彼の生涯に大きな影響を与えることになる。そこで彼は大勢の法律家の知己を得た。と同時に、法律を学ぶことによって、法の理念とそれを実現すべき法の諸制度と、現実のそれとの間に余りにギャップのあるのを直視したのである。政治、社会、法律、裁判、監獄等の当時の実情が権力者にも必要な法律、富豪にのみ有利な経済組織、もめけの殻同様の道德観等虚偽と不正、奸智と暴力がまかり通っている。法律家がこれをただそうとしないばかりか、かえってその風潮に積極的に加担していることにトルストイは怒りを感じた。彼は年齢が増すに従い、益々その怒りが嵩じ、遂に『復活』を発表して天下に告発するところとなった。

司法界の腐敗が如何に世の中を暗くし、人を不幸に貶めることになるか、『復活』は、赤裸々に法律家とそれを取りまく官僚の腐敗と墮落ぶりを驚くべき写実主義をもって描き出すことによって世に訴えた。

『復活』は、法律家にとって実に身につまされる書物である。そこに登場する憐れむべき法律家を他山の石とし、現代の法律家は健康な世づくりのために清潔さを保ち、腐敗を一掃し、社会正義を実現するため、不断の努力をしていかなければならない。

『復活』は、そのような意味で現代の法律家のバイブルともいうべき書物なのである。

(法学)

エッセイ

抒情詩の時間

—久保和彦先生の演習—

野村 廣之

久保和彦先生が突然亡くなられたのは1989年2月24日、ちょうど昭和天皇の大喪の日だった。それは誰も予想しなかった全くの急死だった。久保先生はその日の午後急に気分が悪くなり、救急車で自宅近くの病院に入院されたが、その日の晩に息をひきとられた。60歳であった。

久保先生は、亡くなられるまでずっと千葉大学教養部でドイツ語を教えていらした。私が千葉大学に入学したのは1975年である。しかし入学後すぐに久保先生に教えていただいたのではない。私が初めて久保先生の授業に出たのは、私が4年生の時に、教養部の授業ではなく学部専門課程の演習の時間であった。当時、千葉大には人文学部という学部があり（現在は文学部と法経学部に分かれている）、その学部の人文学科独文学専攻というところに私は入学したのだった。千葉大独文は非常にこじんまりとした専攻で、当時は教官が4人、学生が1年生から4年生まであわせて約30人程であった。私の同期生は私自身を含めて7名である。少人数であることには長所と短所がある。長所は、少人数であるが故に学生どうし、あるいは学生と先生方とが学問的な領域からプライベートな領域までかなり親しくおつきあひすることができるということである。私は1年生から4年生までの学生全員の顔と名前をおぼえていたし、あまり大学に出て来ない4年生は別にして、1年生の時から2・3年生ともよく酒を飲んだり勉強会をしたりしていた。また、千葉大独文の4人の先生方全員の御自宅に私はお邪魔し

たことがある。これは私だけが無遠慮だったのではなく、私の同期生は皆そうであったと思う。逆に、こうした小世帯の短所は、場合によっては慣れあいになってしまうということにある。例えば学生の学力レベルにしても、（もちろん例外も多いが）どうしても平均化してしまいがちである。これが1学年50人以上もいる私立大学の独文科になると、時としてその50人の中に少数だがずば抜けてできる学生が現われることがある。私たちはどちらかと言えば、先生方の期待に反して、どんぐりの背比べを地でいっていたと思う。

久保先生は教養部の先生であったけれども、毎年1コマ独文の専門課程の授業を受け持っておられたのである。先生の御専門は近代ドイツ抒情詩であったので、抒情詩に関する演習が多かったと思う。私が出たのは1978年度の戦後ドイツ抒情詩演習であった。これは第2次世界大戦の直後から1960年代までのドイツ抒情詩の歩みを歴史的に跡づけたものであった。この演習に参加したのは大部分私の同期生たちと私たちより1学年下の学生たちで、合わせて10名弱であった。久保先生の演習には独特の緊張感が漂っていた。それは昼食後の第3時限であったが、私たちは昼休みに学生控室で自然発生的に皆でその日のテキストの内容をあらかじめ検討しておくようになった。授業前に皆で下調べをするというのはめったにないことだった。大部分の授業ではたいていの者は自分が当たった所だけしか予習して来なかったし、自分の当たった所に難しい箇所があってもさほど頓着しなかった。しかし、久保先生の授業には、そうはさせない何かがあった。授業前に皆に下調べをさせるような何かがあった。1つには、テキストである抒情詩自体が難しかったからであるだろう。詩を正しく理解することは日本語の詩であっても決して簡単ではない。しかし、私たちをそ

うさせたのは、テキストの難解さよりもむしろ久保先生の態度あるいは雰囲気であったのだろうと思う。私たちは端的に言って先生が恐ろしかったのだ。別に間違えて訳しても声高に叱責されるわけではない。しかし先生はどのような間違いをも決して見のがさなかった。間違えば必ず指摘される。これは恐ろしいことだった。しかも私たちが自明のこととばかり思っていたことが、間違いであると指摘される。これは新鮮な驚きであった。詩に限らず文学作品を読むことは、みずから新たな体験をすることと同義となり得る。このことが久保先生の演習に出ていた私たちに身にしみてわかったのだろうと思う。久保先生が一言一言、ゆっくりと言葉を選びながら詩を訳されてゆく様を私は今でもありありと思い浮かべることができる。

久保先生の演習の魅力をどのように表現すれば他の人にわかってもらえるのか、私にはよくわからない。しかし、先生の演習に参加された方で私と同様の感慨を持っておられる方は数多いと思う。私たちのように専門科目の演習にではなく、先生の教養課程のドイツ語の授業に出席されていた方の中にもたくさんいらっしゃるのである。恐らくそれは先生が「言葉」を非常に大切にされていたことと関わりがあるのだろう。久保先生の「言葉」に対する厳格な態度、それが私たちをひきつけたのだと思う。久保和彦先生の演習の時間を通して、難解なドイツ抒情詩の一端に私たちは触れることができたのであった。（独語）

アンケート集計結果報告

—図書館オリエンテーションについて—

今回初めて、図書館利用案内にビデオを利用したのを機会に、図書館オリエンテーションについてのアンケートを実施しました。閲覧証交付時にお願いしたアンケートがそれです。実施に際し、皆様の御協力をいただき、無事終了することができましたことを、厚くお礼申し上げます。

1. 調査対象と実施方法

平成3年4月22日（月）から5月31日（金）までに閲覧証の交付を受けた新1年生1293名（在籍者数1578名の82%にあたる）のうち、1249名（交付者の97%の回答率）がアンケートに答えてくれました。

2. 集計結果とまとめ

設問は、答えやすいように以下の3問にしました。

1) 図書館のオリエンテーションについて

a (53%)	b (25%)	c (21%)	白紙 (1%)
---------	---------	---------	---------

a. よかった 全体の53%

大多数の人が、「わかりやすかった。」点を理由としてあげていました。

b. つまらなかった 全体の25%

「ビデオが見られなかったのでつまらなかった。」（不測の事態で上映できなかったクラスの皆様には、申し訳ありませんでした。）

c. その他 全体の21%

図書館のオリエンテーションが、さしてもしろいものではなく、教室の移動がともなう為（ビデオ上映後に図書館見学を実施）、「迷惑だった。」との意見もありました。

2) 図書館利用案内ビデオについて

a (59%)	b (16%)	c (24%)	白紙 (1%)
---------	---------	---------	---------

a. よかった 全体の59%

「利用方法が具体的でわかりやすい。」また、「身近な学生が出演していて、親近感もてた。」との意見がほとんどでした。

b. つまらなかった。 全体の16%

「演技がわざとらしい。」「機械の故障の為、見られなかった。」

c. その他 全体の24%

「機械の故障の為見るができなくて、良し悪しの判断がつかねる。」との意見が主でした。図書館利用案内ビデオ（17分）は、カウンターにありますので、希望がありましたら、声をかけて下さい。

3) 図書館見学について

a (42%)	b (28%)	c (28%)	白紙 (2%)
---------	---------	---------	---------

a. よかった 全体の42%

「自分の目で実際に見れ、本のおいてある

場所がわかり、館内の設備がわかった。」に集約されるようです。「きれい。」という感動を、次に続く学生にも味わってもらいたいものです。皆さん、公共の場所は、きれいに大切に使用するよう、心して下さい。

b. つまらなかった 全体の28%

「まわる人数が多くて、説明が聞き取れなく、よくわからなかった。」「もう少し少人数でやってほしい。」「ビデオと同じだから、別にやらなくてもよい。」「もっとじっくり見たかった。」

短い時間に多くのものをつめこみすぎた結果、皆様には迷惑な話だったのかもしれませんが。

c. その他 全体の28%

「時間のつごうで見学できなかった。」「もう少し、時間をかけてしっかり見たいと

思った。」「自由参加にしてほしい。」「見学者に対して、説明する方が少ない。」

以上、簡単にまとめてみました。皆様の声を聞かせていただけて幸いでした。きびしい批判もありがたく受け、明日からのサービスに生かして行きたいと思っております。今後ともご意見をお寄せ下さい。

なお、閲覧証の学科別の交付率は、別表の通りです。1ヶ月の間に、大勢の人が少なくとも1回は教養図書館に足を運んでくれたようです。図書館を利用（貸出・複写等）するには、閲覧証が必要です。まだ交付を受けていない人は、早めに教養図書館カウンターまで（ただし、医学部は医学図書館にて交付）取りに来て下さい。

閲覧証の学科別交付率

学科	C	H	I	B	P	V	Z	E	F	N	M	全 体
5月末現在	79	94	90	98	89	80	79	55	76	98	68	82(%)

第8回 なんじゃもんじゃの会だより

利用者と図書館との交流の場として、教養図書館3階研修室において映画会を開催しました。

5月31日（金）午後4時20分から午後7時30分までで、当日の参加者は12名でした。

岡野先生（独語）の解説を伺った後、「インドへの道」（1984年イギリス映画）を鑑賞しました。

なお、授業の関係で見逃した人から、次回の企画にはぜひ参加したいと、力強い要望がありました事を、付記します。

夏休み中のお知らせ

夏期休暇中の開館、貸出等については下記のとおりとします。

1) 長期貸出

貸出期間

7月15日（月）～9月21日（土）

冊数制限はありません。

（但し、雑誌は対象外です。）

2) 開館時間

7月25日（木）～9月14日（土）

平日 午前9時から午後5時まで

土曜日 午前9時から午後1時まで

3) 閉館

7月29日（月）～8月3日（土）

蔵書点検の為

8月12日（月）～8月17日（土）

一斉閉館の為

8月19日（月）～8月20日（火）

作業の為



平成 2 年度 教養図書館統計

1. 開館総日数 275日

2. 年間入館者数 107,986人
1日平均入館者数 393人

3. 施設使用状況

記念室	研修室	ゼミ A	ゼミ B	教職員閲覧室	合 計
13	51	173	14	8	259

4. 学年別（所属）貸出比率

	単 行 本	雑 誌	合 計	貸出比率
1 年	3,998	221	4,219	81
2 年	404	39	443	8.5
3 年	206	20	226	4
4 年	182	14	196	4
5 年	13	2	15	0.5
6 年	81	17	98	2
学 生 計	4,884	313	5,197	77
教 職 員	1,219	326	1,545	23
合 計	6,103	639	6,742	100(%)

5. 学部別貸出比率（1学年のみ）

	単行本	雑誌	合計	貸出比率
衛生学部	1,210	64	1,274	30
医学部	368	5	373	9
水産学部	394	52	446	10.5
獣医畜産学部	956	62	1,018	24
薬学部	769	9	778	18.5
看護学部	301	29	330	8
合計	3,998	221	4,219	100(%)

6. 雑誌タイトル別貸出統計

順位	合計	雑誌名	学生	教職員
1	32	北里大学教養部紀要	32	0
2	27	月刊 アクアライフ	26	1
3	26	歴史読本	4	22
4	19	I / O	14	5
	19	環境白書	15	4
6	17	婦人公論	0	17
7	15	文藝春秋	1	14
	15	J. of Exp. Botany	0	15
	15	暮らしの手帖	4	11
	15	サイエンス	9	6

7. 現行受入れタイトル数

	購 入	寄贈・交換	研究室用	小 計
国 内 雑 誌	299	459(404)	22	780(404)
外 国 雑 誌	54	2	15	71
合 計	353	461(404)	37	851(404)

() 内の数は紀要のタイトル数を示す

	年 間 増 加 タイトル数	所 蔵 タ イ ト ル 数		
		図 書 館	研 究 室	合 計
国 内 雑 誌	+ 9	1,191(602)	49	1,240(602)
外 国 雑 誌	+ 9	110(1)	45	155(1)
合 計	+18	1,301(603)	94	1,395(603)

() 内の数は紀要のタイトル数を示す

8. 現有蔵書数（視聴覚資料・単行本）と平成2年度貸出数

（平成3年3月31日現在）

蔵 書 数		比 率 (%)	主 題	N D C	貸出数 (冊)	比 率 (%)
A V資料	単 行 本 (冊)					
794	4,625	7	総 記	0 0 0	62	1
0	6,523	8	哲 学	1 0 0	352	6
6	7,572	9	歴 史	2 0 0	276	4.5
97	10,877	14	社会科学	3 0 0	397	6.5
100	19,533	24	自然科学	4 0 0	3,164	52
34	2,362	3	工学工業	5 0 0	174	3
103	1,110	2	産 業	6 0 0	75	1
484	5,056	7	芸術体育	7 0 0	376	6
117	4,255	5	語 学	8 0 0	242	4
20	14,468	18	文 学	9 0 0	791	13
	2,223	3	未 分 類	新書他	194	3
1,755	78,604	100	合 計		6,103	100

□ 表紙解説

地図の起源は非常に古い。文字よりも古く、人類が絵を描くようになって以来、神聖な場所や方向を示すため、テリトリイを誇示するためまた交易の道案内のためとしてどの文化圏にも現れた。

測量による正しい縮尺と緯度、経度の表示を伴う現在の地図の形式は紀元前3世紀古代アレクサンドリアのエラトステネスの着想である。当時、学術文芸の中心はアレクサンドリアのムセイオンであり、彼はムセイオン所属の図書館長であった。東西に走る緯線と南北に走る経線の網目で地球を覆うという考えは、地球は丸くしかも測定できるくらいの大きさだという彼の強い信念に根ざしていた。彼は数10万冊と伝えられるこの図書館の文献に広く通じていたし幾何学はギリシャ人としての彼の教養の一部であった。たまたま、旅人から“ナイル上流アレクサンドリアの南800kmのシエネ（アスワン）では、夏至の正午太陽は真上から射し込み影をつくらぬ。”と聞いて各地の緯度を定めるには、夏至の正午にその地に射し込む太陽光線の角度を測ればよいことを思い着いた。こうして、北回帰線上にあるシエネとアレクサンドリアとの緯度差 7° を測り、その距離800kmから地球一周 360° の大きさを4万数千kmと算出し、彼の名を後世に残すことになった。

経線がエラトステネスの提案のように地図上に入るのにはヨーロッパにルネッサンスが訪れ、天文学上の新たな発見がもたらされる

矢崎茂夫

まで待たなければならなかった。二つの地点の経度差は時差に比例し、1時間の時差は 15° の経度差に相当する。そして時差を知るには標準的な時計を用意する必要があった。ガリレオの発見した木星の4つの衛星イオ、ヨーロッパ、ガニメード、カリストがこの問題を解決した。これらは天空に浮かぶ時計の針の役割を果たし、地球上のどの地点にも標準時を告げることができる。野心的なルイ14世に初代パリ天文台長として招かれたカッシニは、国王からフランス全土の地図作成を依頼され、ついにこの夜空の時計を使う時が来たと感じた。以来、カッシニ家4代にわたる大事業の末、組織的な規模として最初の地図が完成した。

表紙の図はスイス連邦発行の2万5千分の1地図“マッターホルン”の一部である。淡い色調は澄みきったヴァリスの空を思わせ、今にもアルプを赤い登山電車がゆっくり登って行くのが見えそうだ。一つ一つの等高線にも細心の注意が払われ、描影法によって山の起伏に立体感を持たせている。山とはこういうものだというスイス人の心が伝わってくる。

（物理学）

〈参考図書〉

『古代アレクサンドリア図書館』モスタファ・エル＝アバディ著 松本慎二訳 中央公論社 1991

『MATTERHORN』Landeskarte der Schweiz 1:25000

Bundesamt für Landestopographie 1977

閲覧ニュース64号

1991.7発行

北里大学教養図書館

発行責任者 手塚 甫

〒228 相模原市北里1-15-1

電話 (0427) 78-8005